

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの御報告 (2016年10月19-22日@京都、東京)

平成28年12月



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY



文化庁

Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

【京都オープニング・文化会議 全体会】

義家文部科学副大臣のフォーラム開会宣言によりスポーツ・文化・ワールド・フォーラムがスタート。裏千家十五代・前家元の千玄室大宗匠、京都大学の山中教授、オリンピック遺産財団のフランシス・ガーベット理事長の文化芸術に深い見識を有する国内外の著名人による基調講演を行うとともに、文化による国づくりに向けた宣言を発表。

「2020年を見据えた文化による国づくりを目指して(通称:京都宣言)」(概要)

2020年に向け、文化振興の機運を高め、文化による国づくりに一丸となって取り組んでいくことを宣言。

(総論)

- 文化を創造・享受し、文化的な環境の中で生きる喜びを見出すことは人々の願い。さらに文化は心豊かな社会を形成し、世界の平和にも寄与するもの。
- 我が国は、2020年東京大会の開催を控えている。オリンピック・パラリンピックは文化の祭典でもある。
- リオ大会のオリンピック閉会式では、我が国が誇るポップカルチャーを活用した創造的な演出が世界に大きな感動を与えた。
- 今こそ、多様な文化の振興はもとより、産業振興や海外展開、地方創生等への大いなる可能性を秘めた文化による国づくりをオールジャパンで推進すべきである。

(各論)

- あらゆる人々が行う多様な文化活動は意義深いものであり、全国各地で優れた文化活動が活発に展開されることを大いに期待する。
- 我が国は、2020年東京大会開催に向け、全国的な機運を醸成するとともに、地域性豊かで多様性に富み、次世代に誇れるレガシーの創出に資する取組を、文化プログラムとしてオールジャパンで推進する。
- これからの文化行政は、文化を資源として捉え、文化への投資が新たな社会への発展にもつながるよう転換させる。世界の文化の発展に貢献するため、戦略的な国際協力・国際文化交流を強化する。さらに、産業振興や地方創生、社会課題の解決等を目指す文化による国づくりを推進する。このため、必要な機能強化を図り、総合的に施策を推進する。

(関係機関)

内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局
内閣府知的財産戦略推進事務局
文化庁
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
京都府
京都市



【京都・文化会議 分科会】

●文化芸術資源で未来をつくる～輝き続ける日本へ～

文化プログラムを全国展開していくための機運を醸成することを目指し、文化プログラムにつながる各地の意欲的な取組みと、文化プログラムの実施を通じて創出すべき文化的レガシー等について議論。あわせて、車いすダンスの公演や小学生とアイドルグループの合唱、アール・ブリュット作品の展示を行った。

●日本文化と雅

3代将軍徳川家光が寛永文化を開花させた後水尾天皇を京都の二条城でもてなしてから約400年目に当たることを記念し、各国のスポーツ大臣やASEANを中心とした文化大臣等の参加のもと、特別な文化プログラムを実施。

●クリスタルアワード受賞者との特別ワークショップ

世界経済フォーラムの協力のもとクリスタルアワード受賞者3名（アナント・シン氏、アンジェリーク・キジョー氏、タン・スウィーヒャン氏）に日本最大の禅寺である妙心寺の塔頭退蔵院にて、ワークショップ等を実施。

●創造都市ネットワーク日本（CCNJ）自治体サミット

全国津々浦々での文化プログラムの実施に向けた機運の醸成を目指し、創造都市ネットワーク日本（CCNJ）の加盟自治体首長による文化プログラムに向けた取組の報告を行うとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会という大きなチャンスを生かし、文化芸術の力を全国各地で開花させるために「自治体サミット宣言」を発表。



【京都・文化イベント】

●文化イベント

- ・世界遺産・二条城の国宝・二の丸御殿を舞台に、第三代将軍徳川家光が約400年前に後水尾天皇の行幸をお迎えした当時の饗応を再現。後水尾天皇が好んだ雅楽や能楽、四代・池坊専好氏による立花の実演のほか、大広間からライトアップした特別名勝の二の丸庭園を披露。
- ・重要文化財・台所では、川井郁子氏の演奏による西洋のヴァイオリンと和太鼓や二十五絃箏、尺八といった東洋の和楽器のコラボレーションによる幻想的なコンサートを開催。

●文化体験プログラム

日本文化を凝縮した京町家等において、茶の湯などの伝統文化を海外政府関係者に体験してもらい、京町家の設えや京都人の日常の生活について体験。



【東京プレナリー、公式夕食会等】

●第一部 挨拶・基調講演

京都での成果を引継ぎ、東京での開会を宣言。安倍総理からのビデオメッセージに続き、森東京オリパラ組織委員会会長、バッハIOC会長、クレイブンIPC会長、ボーモントワールドドラグビー会長、クラウス・シュワブWEF会長が御登壇。

●第二部 官民パネル

松野大臣とフォーラムのパートナー企業5社の代表がステージ上で本フォーラムへの期待や2020年、そしてその先の日本の姿等についてパネルディスカッションを開催。

●文化イベント「The Land of Rising Sun」

宮本亜門氏演出、市川海老蔵氏、蜷川実花氏、チームラボ等によるジャンルを超えた気鋭なクリエイター陣と、多様なキャストが集まり、音、映像、歌、踊り、演武など迫力あるショーで会場を魅了。

●公式夕食会

安倍総理、東京プレナリー登壇者、各国スポーツ大臣、本フォーラム協賛企業関係者の参加のもと、被災地を含む日本の選りすぐりの食材を活かした和洋折衷のメニューを披露。安倍総理からの御挨拶（御挨拶中に国民栄誉賞受賞者伊調馨選手を御紹介）に続き、丸川東京オリンピック・パラリンピック大臣、小池東京都知事から御挨拶。



【東京・スポーツ関係のセッション等】

●ラグビーの魅力・ラグビーワールドカップの力

アジア初のラグビーワールドカップの開催国として、ラグビーの魅力のアジア等の国々へ伝承し、ラグビーの普及促進及びラグビーワールドカップの開催がもたらす国内外の社会的・経済的な発展の可能性等について議論。

●オリンピック・パラリンピックがもたらすレガシー

遠藤利明東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事を議長とし、東京大会のレガシーとして、国民がスポーツに親しみ、応援する環境を整備していくことに加え、共生社会の実現や文化・教育など幅広い分野でレガシーを残していくことの重要性についてアスリート等を登壇者に加え議論。

●スポーツ大臣会合 Sport for Tomorrow

高円宮妃殿下に御臨席いただき、お言葉をいただいたのち、松野大臣を議長とし、35カ国の大臣を含む69カ国の各国代表とともに、我が国のスポーツを通じた国際貢献の取組である「Sport for Tomorrow」をテーマに、3つの柱（「開発と平和のためのスポーツ」・「スポーツ・フォー・オール」・「スポーツのインテグリティ保護」）の下、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催国である日本から「スポーツの力」について議論。結果については、2013年のMINEPS-Vで採択された、ベルリン宣言等のフォローアップを行い、今後の議論へつなげていく予定。

●各国スポーツ大臣とのバイ会談、マルチ会談、協力覚書署名式

松野大臣、水落副大臣、田野瀬政務官、鈴木スポーツ庁長官は、計33カ国の各国スポーツ大臣とバイやマルチ会談、4カ国（ブラジル、アルゼンチン、オランダ、ジブチ）二国間の協力覚書の署名式を実施。



【官民ワークショップ、文化イベント等】

●官民ワークショップ

ダボス会議を主催する世界経済フォーラムと日本政府が連携して実施した官民ワークショップには60を超える国々からビジネス、政府、市民社会を代表するリーダーが300名以上参加し、日本からの参加者と併せて600名以上が参加し、新たなライフスタイル、健康長寿社会へのアプローチ、若年世代の新たな価値観、過去のトレンドからは到底予想できない破壊的技術革新などをテーマに、26のセッションで世界の未来を議論。

●次世代共創シンポジウム

2020年に活躍が期待される大学生を中心とした次世代リーダーが集い、多様なセクターで活躍する国内外の若手リーダーとともに、2020年、そしてその先の未来に向かう次世代リーダー発のアイデアを国内外に提案。

●ディヴァイン・ダンス 三番叟 ～神秘域（かみひそみいき）～

狂言師・野村萬斎氏が主演し、構成・美術を現代美術作家・杉本博司氏が手がけた文化イベントを上演。時代とジャンルを超えた伝統芸能と現代美術の融合を新たな表現で世界に発信。

●スポーツエクスカージョン

各国スポーツ担当大臣等40名が参加し、味の素ナショナルトレーニングセンター及び国立スポーツ科学センター、東京オリンピックパラリンピック開催予定地を紹介。

●日本文化体験プログラム

高円宮妃殿下御臨席のもと、海外CEO等を対象に、遠州茶道宗家家元による呈茶を実施。
また、東京国立博物館において、茶器特別展や高円宮コレクション（根付）の鑑賞を実施。



【東京・文化会議 分科会（シンポジウム・展示会・上映会）】

●文化芸術活動を通じた多様性を尊重する社会の実現に向けて

オリパラムーブメントとともに文化芸術による社会的包摂の取組を進めていくことによる、多様性を尊重する社会の実現、ひいては芸術文化のさらなる発展へとつながるような様々な取組みについて議論。



●ここから-アート・デザイン・障害を考える3日間

「オリンピズムの根本原則」に向けて、あらゆる人々が新たな意識で生きるための一歩を踏み出すことを目標に、我が国における現時点での障害のある方による優れた芸術作品や障害のある方のための優れた取組等を紹介。



●バリアフリー映画上映会

文化芸術による社会包摂の取組の一環として、最新技術によるバリアフリー映画字幕及び音声ガイドを用いて、障害のある方々が不自由なく映画を鑑賞し、障害の有無にかかわらずあらゆる人々が共に楽しむことができる映画上映会を開催。

